

(名古屋大学名誉教授)

明治25年(1892)広島県呉市生れ。大正6年東京帝国大学工科大学建築学科卒業。(同級生はすべて亡くなられており、筆者との年代も20年近く離れているため、正確な記述が困難である旨、お断りしておきたい。)旧姓天野とあるから、中村家の養子とも考えられる。名前も、かんさんと呼ばれていたが、ひろしが本当かも知れない。

内務省において住宅問題を扱う主任技師——或は唯一の担当者と言っていいのかも知れない——として活躍された。東大教授内田祥三氏の信任が厚かった。英国の住居法(Housing Act)を研究され、不良住宅地区改良と共に伴う小住宅監督制度を熱心に提唱された。

大正12年(1923)の関東大震災ののち設立された「同潤会」の諸施策は、内田・中村両氏に負う所が大きかったものと考えられる。

同潤会は応急のバラック建設を一応終えた後、次第に質の改善に立向った。わが国ではじめて市街地に鉄筋コンクリートのアパートを建設経営したのも同会である。主として3階建であったが、現在まで青山その他に残っている。また、東京市深川区猿江裏町の不良住宅地区を改良し、この実績をもとに昭和2年(1927)、不良住宅

地区改良法が成立したことも両氏の功績に数えてよいであろう。

(これらは中村寛著、常磐書房・高等建築学第25巻「住宅経営」、(1938年)に詳しい。)

さらに、東北地方の農地住宅の調査改善にも手を染め、数冊の報告書が出版されている。

戦雲の濃くなった昭和14年には軍事保護院技師となり、同16年には工営課長として、傷痍軍人の療養所建設にも当ることになった。

晩年の消息は詳らかにしないが、筆者の目には、戦前の住宅問題の第一人者としての俳が最も深く焼きついている。

